

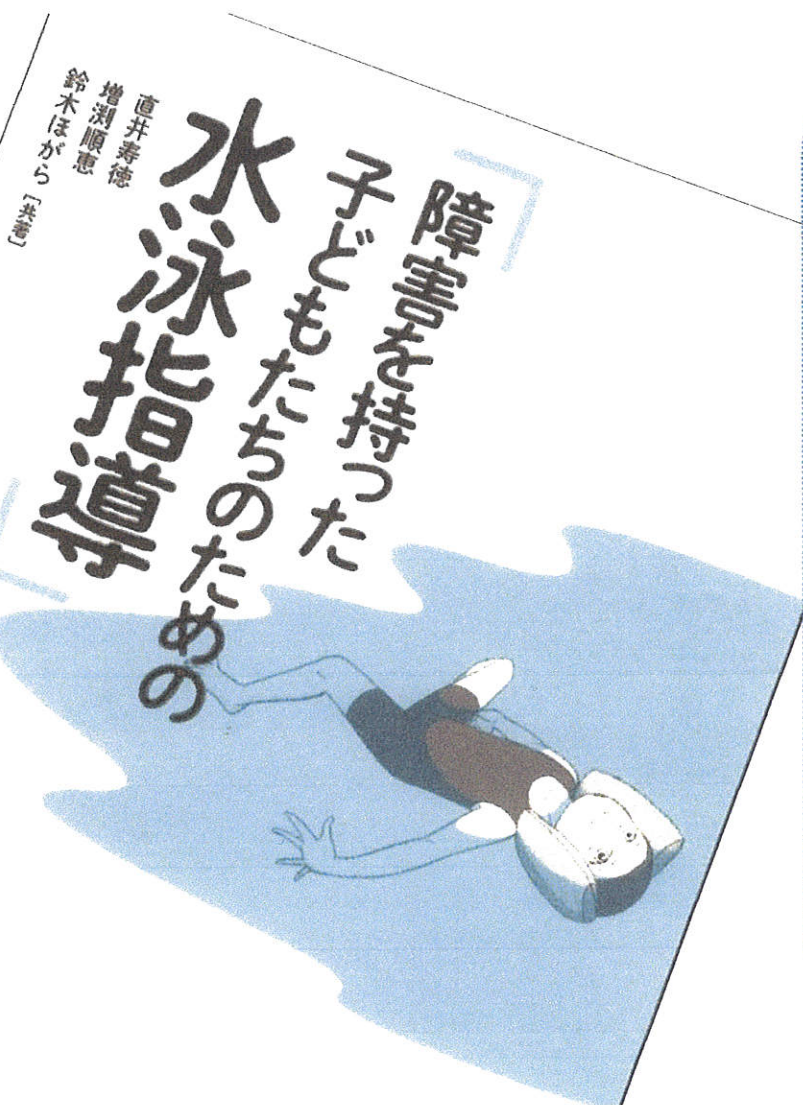
# あっ 立ってられる 浮いてられる 手足も動く 抱かれて一緒に水の中 気持ちに通う水の中

いつも何かに制約されている子どもたちに プールは自由な世界を提供します

しかしうまく関わられなければ、子どもは緊張して辛い時間を過ごすこととなります  
どうしたらリラックスして楽しんでもらえるか

この本は そうした関わり方の基本を豊富な経験から教えてくれます  
障がい児保育や教育に携わる先生たちにもぜひ紹介したい本です

(ベルデ堺所長 児玉和夫)



水の中では重力の影響が軽減されるため、陸上では思うように動けない子どもたちも、過度な努力をしなくても自発的に動くことが可能で、むしろ障害を持っている子どもたちにとってこそ、プールでの指導が大きな意味を持つと言えるでしょう。では、プールにおける指導の目標は何でしょう。それはもちろん「泳ぐこと」です。(本文より)

重症児・者や気管切開をした子たち、水が怖くてプールサイドに行くことが出来なかった子どもが、水の中で楽しみ、泳げるようになって大会に出た子は、25メートル泳げるようになって大会に出た子もいます。(本文より)

## 「障害を持った子どもたちのための水泳指導」

直井寿徳・増淵順恵・鈴木ほがら共著

健康ジャーナル社刊

定価 1200円(税別)

書店でお買い求めいただけます

健康ジャーナル社